

ご存知ですか、かとうの水

加東市の上水道と下水道

水道の蛇口をひねると当たり前のように出てくる水ですが、この水がどのようにして蛇口まで来ているのかご存知でしょうか。
また、台所やトイレで使った水は、どこでどのように処理されているのでしょうか。
市内の水がどこから来てどこに行くのか、その道のりをたどってみましょう。

加東市の上水道

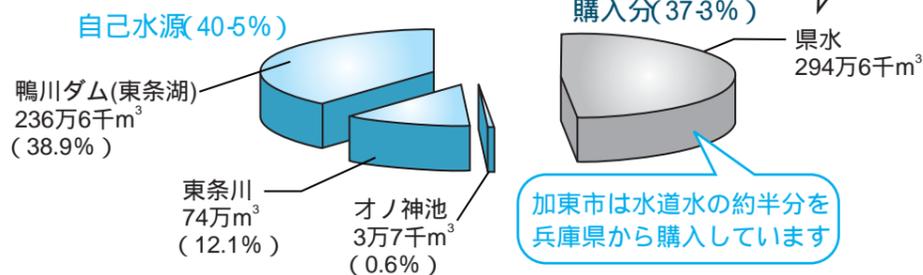
【平成19年度 浄水量(水道水を作った量)】

1年間で約608.9万 m^3 (1 m^3 = 1,000 l)

1日当たり約16,700 m^3
(25mプール約40杯分)

兵庫県水道用水供給事業から購入する浄水を「県水」と呼んでいます。

【水源の内訳】



加東市は水道水の約半分を兵庫県から購入しています

加東市の下水道

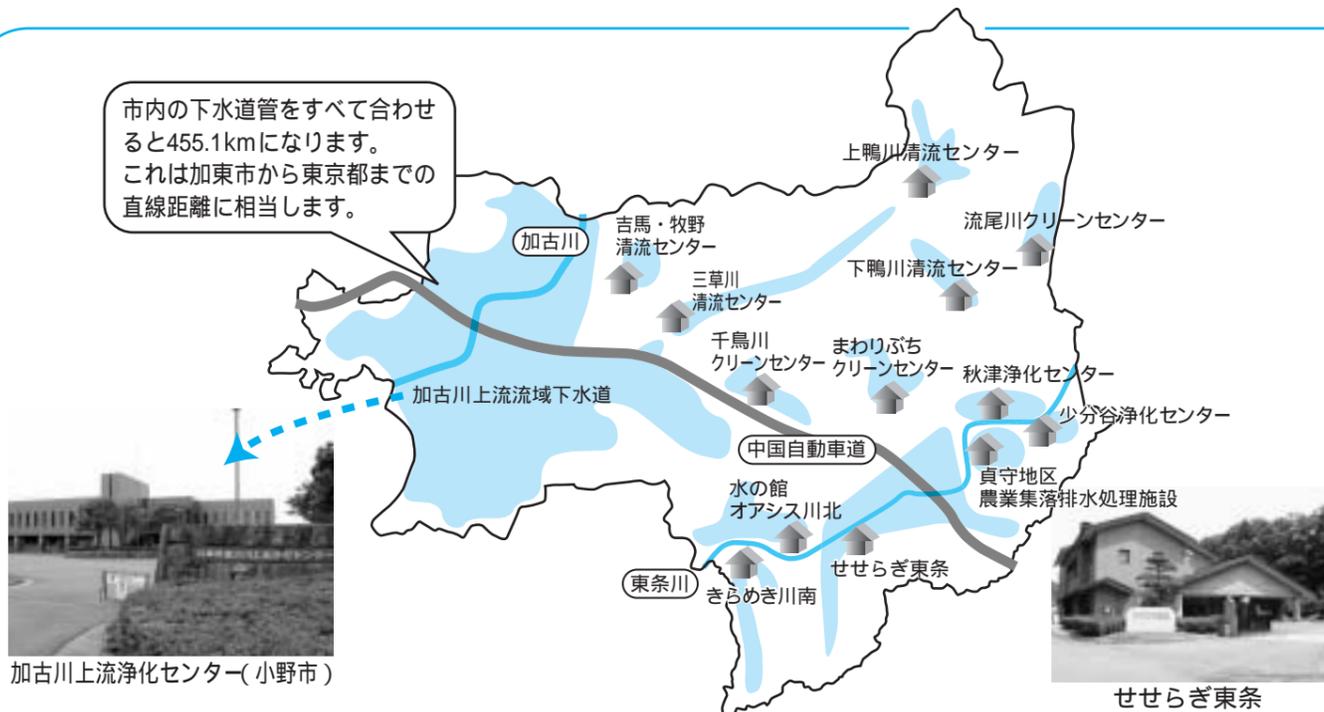
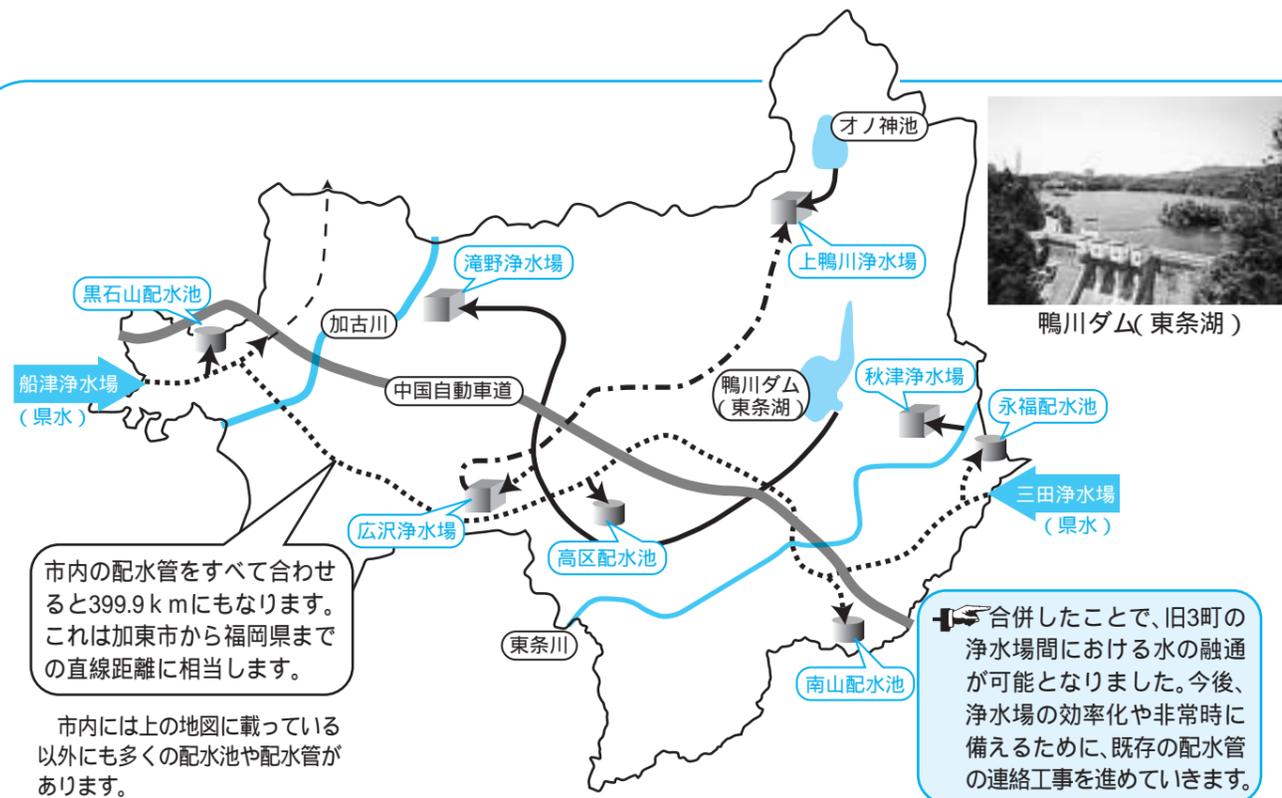
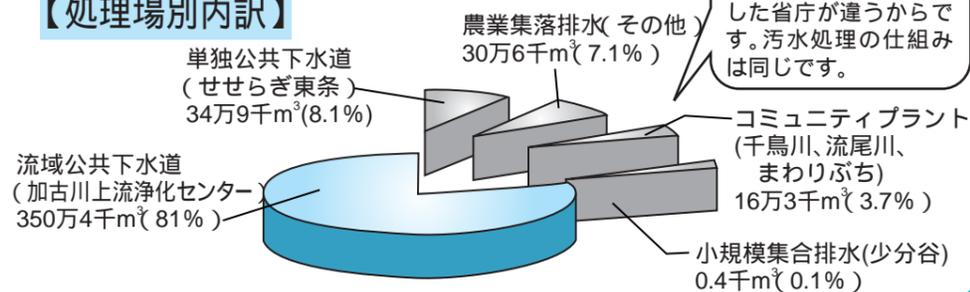
【平成19年度 汚水処理量(水をきれいにした量)】

1年間で約432.6万 m^3

1日当たり約11,900 m^3
(25mプール約28杯分)

名前が違うのは、設置するときに補助金を出した省庁が違うからです。汚水処理の仕組みは同じです。

【処理場別内訳】



加東の水はどこから

加東市には加古川をはじめ、東条川、千鳥川、三草川などの河川があり、水に恵まれているように思えます。しかし、河川から取水しているのは東条川だけで、市全体の水道使用量から見ると約一割に過ぎないのです。では残りの水道水はどこから来ているのでしょうか。

平成十九年度には、一年間に約六百八十九千 m^3 の水道水が、市内の配水池に送られました。その内、東条川、鴨川ダムやオノ神池という市内の水源(自己水源)から取水し、市内で浄水したのが約三百四十四千 m^3 で、全体の約五一・六%に当たります。

そして、残りは兵庫県から購入した水(県水)でまかなわれました。県水は三田浄水場や船津浄水場(姫路市)で飲むことができる水となり、加東市まで届けられています。加東市では平成十九年度に、約二百九十四万六千 m^3 の水道水を購入しました。水道水の購入は、自己水源でまかないきれない分を補うためだけでなく、水源を数多く確保することによって、水源の枯渇などによる水不足のリスクを分散させることにもつながります。

使い終わった水はどこに

家庭の台所やトイレ、事業所などで使われて汚れた水は、下水道に流れ込みます。そして処理施設に送られ、そこできれいな水にして再び川や海に返します。私たちが快適で衛生的な生活を送り、川や海を汚さないためには、下水道は欠かせないものです。

平成十九年度には、加東市全体で一年間に約四百三十二万六千 m^3 の汚水が処理場に送られました。市内のすべての汚水が同じ処理場に送られているわけではありません。細かく処理区域が決められており、処理区域ごとに市内十三箇所と市外一箇所の処理施設が設置されています。その中でも、最も多くの汚水を処理しているのが小野市にある加古川上流浄化センターです。

加古川上流浄化センターは、滝野地域の大半と社地域の西部を処理区域とし、平成十九年度に三百五十万四千 m^3 の汚水を処理しました。これは加東市全体の処理量の約八〇%に当たります。

また、残りの地域の汚水も、それぞれの処理区域にある処理場に送られ、きれいな水に再生されて川に返されます。